

# 北九州高速鉄道株式会社

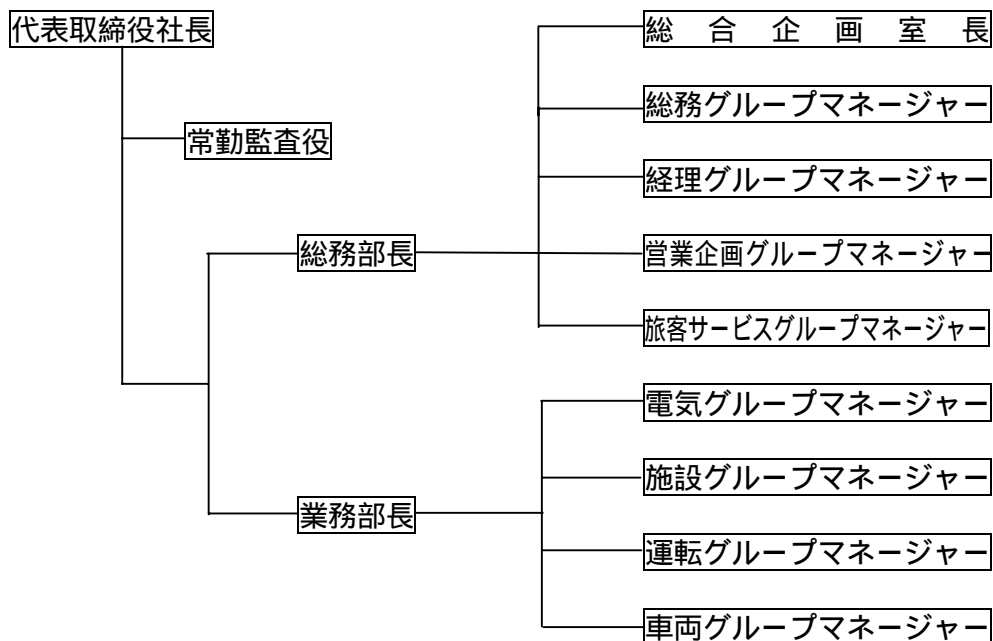
北九州高速鉄道株式会社は、鉄道の使命である輸送の安全性・運行の定時性の確保に努めています。

また、利便性や旅客サービスの向上に努め、乗客の増加対策を図るとともに、経営の効率化、経費の節減等経営基盤の安定に努めています。

〔設 立〕 昭和 51 年 7 月 31 日  
〔所 在 地〕 北九州市小倉南区企救丘二丁目 13 番 1 号  
Tel 093 - 961 - 0101  
〔目 的〕 市街地の拡大及びモータリゼーションの激化による都市交通問題に対応し、健全な市街地整備を促進するため。  
〔事 業〕 軌道法による一般運輸業、広告宣伝業等  
〔資 本 金〕 3,000,000 千円  
＜うち本市出資額 3,000,000 千円(100.0%)＞  
〔決 算 期〕 毎年 3 月 31 日  
〔主 務 官 庁〕 国土交通省  
〔本 市 所 管〕 建築都市局計画部都市交通政策課 (Tel 093 - 582 - 2518)

## 1 法人の組織

### (1) 機構図



(2) 役職員数

	人数	平均年齢			
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	7人	2人	2人	3人	61歳
職員	139人	0人	1人	138人	48歳

(3) 役員名

- 〔取締役会長〕 木原 文吾 (株式会社井筒屋特別顧問)  
〔代表取締役社長〕 瀧谷 嘉彦 (みくに産業株式会社取締役会長)  
〔取締役〕 北島 粹 (北九州市建築都市局理事)  
〔 " 〕 石丸 美奈子 (財団法人北九州市芸術文化振興財団理事)  
〔常勤監査役〕 西村 正幸 (北九州市民共済生活協同組合専務理事)  
〔監査役〕 伊藤 公一 (北九州市建築都市局総務企画部長)  
〔監査役〕 赤司 真人 (株式会社福岡銀行取締役常務執行役員北九州本部長)

2 事業の概要等

<北九州モノレールのあらまし>

(1) 営業キロ 8.8km 全線複線 (建設キロ 9.1km)

(2) 駅数 13 駅 (駅間平均距離 733m)

(3) 建設費

インフラ部 332 億円  
インフラ外部 349 億円  
計 681 億円

(延伸区間)

インフラ部 105 億円  
インフラ外部 30 億円  
計 135 億円

(4) 運転時分 19分

(5) 運転本数 平日 105 往復 土日祝 101 往復

(6) 運転時隔 朝ラッシュ時 6分 昼間 10分

(7) 運転速度 最高 65.0km/h 平均 33.9km/h  
表定 27.4km/h

(8) 車両数 40 両 (4 両×10 編成) 全電動車

(9) 車両規格 長さ 1 編成 60.2m 高さ 4.92m 幅 2.98m

(10) タイヤ 1 両当り 2 台車、1 台車につき 10 本 (走行輪 4 本、案内輪 4 本、安定輪 2 本) ゴムタイヤ (チューブレス)

(11) 主電動機 75KW (全電動車、1 編成 1,200KW)

(12) 定員 392 人 (うち座席数 145 人)

- (13) 運転方式 ワンマン運転 A T O
- (14) 保安設備 連続列車検知式自動列車制御方式 ( A T C / T D )
- (15) 通信設備 列車無線及び集中ホーム監視装置
- (16) C T C 自律分散処理方式 ( C P U ) による制御
- (17) 桁本数 本線 P C 565本 鋼 45連
- (18) 桁規格 標準桁 ( P C 桁 )  
サイズ L = 20m H = 1.5m W = 0.85m
- (19) 支柱数 R C 252基 鋼 125基
- (20) 桁高 道路面上 (最大) 19m (最小) 7.9m (標準) 12.5m
- (21) 変電設備 D C 1,500V 3カ所 (6,000KW)

### 3 主な事業実績 (平成18年度)

当期で開業23年目を迎えた北九州モノレールは、輸送の安全性、運行の定時性の確保に努め、順調な運行を続けながら、開業からの輸送人員が2億4,449万人に達することができました。

当期は、小倉競馬や小倉祇園まつりなどの利用者の減少、台風による運休、通学定期利用客の通学方法の変更などで定期外利用客と通学定期利用客が減少しましたが、平成18年3月のシルバーパスの発売及び同年11月の小倉～旦過間100円きっぷの導入等により、輸送人員は、1,108万人 (前期比0.4%増) で、運輸収入については、19億8,328万円 (前期比1.6%減) となりました。

当期の営業損益は、営業収益21億4,631万円 (前期比0.5%減)、営業費18億8,623万円 (前期比3.7%減) で2億6,007万円 (前期比30.5%増) の利益となりました。営業収益は、減少しましたが、営業費についても前期の経営改善計画策定に伴う委託料の減等の節減を図り、収益の確保に努めました。

上記営業利益に、営業外損益・特別損益・法人税等を加えた当期純損益は、1億6,856万円 (前期比0.8%増) の利益となり、平成10年度以降9期連続で単年度黒字を計上しました。

なお、設備更新については、車両自動試験装置やA T C / T D装置等の設備更新が完了しました。

#### 4 市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成17年度	平成18年度
出資金の状況	3,000,000	3,000,000
補助金	0	0
委託料	409,796	371,203
貸付金残高	1,300,000	1,300,000

#### 5 資産・収支の状況(平成18年度決算)

##### (1) 貸借対照表

平成19年3月31日現在(単位：円)

資 産 の 部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	4,104,081,741
流動資産	2,152,842,293	流動負債	915,642,348
現金預金	1,988,172,751	未払金	739,808,018
未収運賃	12,815,949	未払費用	6,874,468
未収金	14,466,984	前受運賃	52,197,844
商品	6,096,092	前受収益	3,020,587
貯蔵品	101,359,453	預り金	12,032,795
未収消費税等	14,386,658	未払法人税等	48,554,100
未収収益	2,780,820	賞与引当金	53,154,536
その他流動資産	12,763,586		
固定資産	14,507,588,742	固定負債	3,188,439,393
軌道事業固定資産	14,195,707,202	長期借入金	1,300,000,000
建設仮勘定	311,844,330	退職給付引当金	294,431,900
投資その他の資産	37,210	預り敷金	600,000
		預り保証金	2,400,000
		再評価に係る繰延税金負債	1,591,007,493
		(純資産の部)	12,556,349,294
		資本金	3,000,000,000
		資本剰余金	6,871,521,775
		資本準備金	6,871,521,775
		利益剰余金	335,747,114
		その他利益剰余金	335,747,114
		繰越利益剰余金	335,747,114
		土地再評価差額金	2,349,080,405
資産合計	16,660,431,035	負債及び純資産合計	16,660,431,035

## (2) 損益計算書

自 平成 18 年 4 月 1 日  
至 平成 19 年 3 月 31 日 (単位: 円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
(営業損益の部)		
軌道事業		
営業収益	2,146,311,394	
営業費	1,886,232,111	
営業利益		260,079,283
軌道事業営業利益		260,079,283
(営業外損益の部)		
営業外収益		
受取利息	4,432,384	
雑収入	96,528,602	
営業外費用		
支払利息	260,519	260,519
経常利益		360,779,750
特別損益の部		
特別損失		
固定資産除却損	85,387,158	85,387,158
税引前当期純利益		275,392,592
法人税、住民税及び事業税	106,829,704	
当期純利益		168,562,888